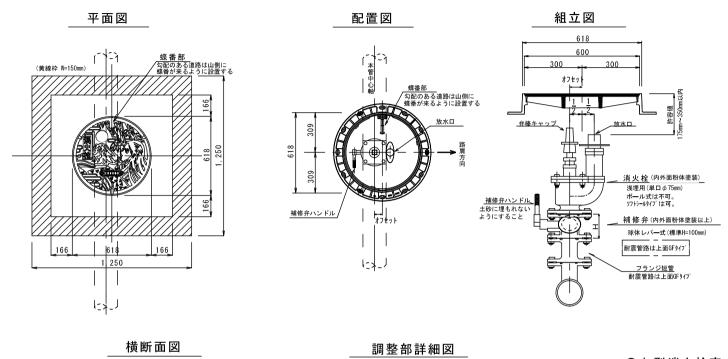
別紙

富士市消火栓規格及び施工方法基準



(無収縮モルタル及び調整駒) 618 蓋(25t) 600 受枠 緊 結 ボルト (M 1 6) (頭がGL-50mm未満となる場合は切断する) Leve 11111 六角ナット(M16) 回り止めキャップ サブホルダ メインホルダスリーブ 上部ブロック メインホルダ ボルトスリーブ 無収縮モルタル 下部ブロック 海生碎和 再生砕石基礎工。 800

フランジ短管 耐震管路は上面GFタイプ

φ1.000

●丸型消火栓室の組立注意事項●

- 1. 鉄蓋及び受枠以外はレジンコンクリート製品である為、取扱いは十分注意する。
- 2. 補修弁ハンドル位置は消火栓放水口の反対側とし、道路中心側とする。
- 3. 鉄蓋の蝶番部が管軸線上となるように設置する。

(勾配のある道路は山側に蝶番が来るように設置する)

- 4. 弁室内埋戻しは、補修弁下フランジ頂部まで再生砕石で施工する。
- 5. 道路勾配等により、消火栓室設置に支障がある場合は監督員と協議する。
- 6. 下桝と受枠とのセットボルトの締め付けは、レンチ等で3ヶ所均等に締付ける。
- 7. 施工中は仮蓋を使用することとし、本舗装完了後に新品を設置すること。
- 8. 調整部については、別紙施工手順に沿って行うこと。
- 9. 弁棒キャップ芯と放水口との中間を消火栓室の横断方向の中心とする。 縦断方向については弁棒キャップ芯を消火栓室の中心とする。
- 10. 無収縮モルタルの標準施工厚50mmを超える場合は1袋で不足して打継ぎ とならないように注意すること。

平成28年度改訂版

※消火栓の設置箇所は、家屋の門前、商店・事業所・病院・消防署の出入口、交差点・横断歩道上は避けること。